

J A 浜中町における高齢者生活支援

研究員 松吉 夏之介

目次

- | | |
|----------|-----------------|
| 1. はじめに | 3. J Aはまなかデイサロン |
| 2. 地域の概要 | 4. おわりに |

1. はじめに

本誌No.178にて、公的介護保険制度が発足する以前から地域の課題を汲み取り、自主的に地域活動（高齢者への生活支援等）を行ってきた「特定非営利活動法人J Aあづみくらしの助け合いネットワークあんしん」の事例を紹介した。同事例において、その前身はJ A女性部の助けあい組織でありJ A内の任意団体であったが、法人格を取得し、行政からの受託事業や高齢者のための生きがい・健康づくり、福祉サービス、学習・研修等、幅広い活動を展開していること等に触れた。

地域共生社会の実現が目指されているなか、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための、こうした活動はますます重要になっていくと思われる。しかし、活動メンバー自身の高齢化や新メンバーの募集・獲得が難しい等の現状があり、活動を継続させていくことが今後の課題の一つに挙げられる。また、J Aによっては、助けあい活動に関わることへの優先順位は必ずしも高いとはいえない状況にあるだろう。

本稿では、J Aが組合員の声に応える形で発足させ、15年以上にわたって活動を続けてきたJ A浜中町（北海道）の「J Aはまなかデイサロン」の取組みを紹介する。本事例は、公的介護保険制度によることのない、J A

や地域住民等の自主的な活動として続けられてきたもので、地域における多職種連携が実現されている。

2. 地域の概要

浜中町は、北海道の東部、釧路市と根室市の間に位置し、ラムサール条約湿地として国内5番目の広さを持つ霧多布^{きりたっぶ}湿原や野生のラッコの繁殖地としても有名な霧多布岬を有する自然豊かな町である。また、某人気漫画の原作者の出身地であることから、その漫画キャラクターの等身大パネル等が町の様々な場所に飾られ、観光振興と地域活性化に取り入れられている。



(出所) 筆者作成

主要産業は農業と漁業で、農業は酪農が主体である。1981年からはJA浜中町が生乳、土壌、飼料等の分析を行うために設立した「JA浜中町酪農技術センター」の分析結果に基づいた酪農経営が行われている。生産される生乳はとて高品質で、米国の大手アイスクリームメーカーが日本へ進出する際に原材料として採用されるなど、国内外で認められている。漁業はコンブ漁を中心とする沿岸漁業とサケ・マス漁等の沖合漁業が中心である。特に昆布漁は日本でも有数の生産量を誇っている。

浜中町の人口は、2022年10月末時点で5,430人となっている¹。2020年3月に浜中町が策定した「浜中町人口ビジョン（改訂版）」によると、人口のピークは1960年の11,915人で、以降、基幹産業である農業・漁業の不振、地元就職先の不足による高卒者等の若年労働力の町外流出、近年の少子化等により減少傾向が続いている。2015年に6,061人、2020年は5,507人と、ピーク時の46.2%まで減少した。

浜中町では酪農が主要産業と述べたが、経営者の高齢化や後継者不足により、農家戸数は年々減少している。そうした状況のなか、JA浜中町や行政を中心に、関係機関・団体が協力して、新規就農支援を積極的に展開している。JA浜中町HPによると、町内の酪農家の2割は新規就農者で、その半数以上が北海道外からの移住者とのことである。

また、2022年1月1日時点における高齢化率は33.1%で、全国の29.0%より高く、北海道の32.5%よりやや高い水準となっている²。2021年3月に浜中町が策定した「第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」による

と、2020年9月末時点の世帯数は2,392世帯で、そのうち高齢者のいる世帯数は1,244世帯で、総世帯に占める高齢者のいる世帯の割合は52.0%であった。半数以上の世帯で高齢者がいることとなり、その割合も2015年以降、増加傾向が続いている。

3. JAはまなかデイサロン

ここで、本稿で取り上げる「JAはまなかデイサロン（以下、デイサロン）」の概要等を述べることにする。

(1) デイサロン開設のきっかけ

JA浜中町では、2003年の「第六次農協中長期計画」策定にあたって、酪農に関わるすべての女性を対象にアンケート調査を実施した。これまでもJAがアンケート調査を実施することはあったが、それは正組合員である酪農経営者を対象としたもので、回答者の多くは男性であった。当時JAの組合長であった石橋榮紀会長によると、当該計画策定に際しては「酪農経営を担う女性の視点から、生きる・働く・暮らすということを、生産だけでなく生活の面からとらえて組み立ててみる必要がある時代になっているとの観点」から、組合員女性および組合員の女性家族を対象に実施したとのことである³。そして、アンケート実施後もアンケートの感想やJAに対する意見等を直接聞くために、集計結果の報告会を兼ねた懇談会を地区ごとに開催した。そのなかで多数挙げられたのは、JAの事業としての取組みとは異なる視点として、高齢者家族の介護問題や引きこもり問題、公的介護保険サービスの前段階の問題等への不

1 浜中町HPより（2022年11月9日閲覧）
https://www.townhamanaka.jp/kakuka/juumin/kankyouka/koseki_juumin/2017-0428-1510-29.html

2 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和4年1月1日現在）」より

3 浜中町農業協同組合「JAはまなかデイサロン開設15周年記念誌（2022年発行）」より

安であった。

浜中町の酪農地域では、広大な土地に住宅が点在しているため、車を運転できない高齢者はなかなか外出することが難しい状況にある。酪農作業の繁忙期は、通院等への同行さえも家族にとっては負担となり、高齢者家族もそのことを気遣い、なるべく家族に迷惑をかけたくないとの思いから、家に閉じこもることが多くなってしまった。また、隣近所との距離が数km離れていることが珍しくないため、日中、家族が酪農作業等の仕事に出ている間、酪農をリタイアされた高齢者家族には話し相手がない。家族も、仕事を終えて疲れて帰ってきた後で話し相手になるのはとても大変との意見もあったようである。その後、「キャンナス釧路（後述）」に協力を要請し、JA女性部にも声をかけ、デイサロン設立のためのプロジェクトチームを結成する。その話し合いのなかで、グループホームやデイサービス等の公的介護保険制度に関するサービス提供も検討されたが、「まだ介護は必要ではないけれど自宅から外出する機会が減ってしまった方々を、まずは外出させてあげられるような活動をしてみよう」とのキャンナス釧路からの発案により、デイサロンの設立趣意書がまとめられていった。

車と運転免許は広大な酪農地域では生活必需品となる。しかし、年を重ねるとともに車の運転が難しくなり、移動の自由を失い、日々の買い物や通院、友人との交流もままならなくなってしまう。こうした状況が切実な声としてあらわれ、組合員とその家族のため、そして地域のために何とかしたいとの思いから、JA浜中町エリアの高齢者交流事業として、2006年10月にデイサロンは始まった。

(2) 活動内容

デイサロンは、公的介護保険制度の対象とされないサービスを提供する活動であり、「デイサービス（通所介護）」ではなく「サロン」と名付けられている。高齢者が気軽に集まり、楽しく過ごせる場を提供し、酪農地域における高齢者の外出を支援する活動となっている。

週に一度⁴、JA浜中町・本所の一室を借りて開催しており、朝、送迎バスにて酪農地域の各牧場に居住する利用者を迎えに行くことから始まる。JA店舗での買い物や診療所の受診、美容室へ行ったり、郵便局や役場での用足し、おしゃべりや体操、ゲームなど、個々で自由に過ごすことができる。看護師免許を持つ活動スタッフによる血圧測定や健康相談の他は、特定のプログラムを決めておらず、利用者は思い思いの時間を過ごし、夕刻に各家庭まで送っていくことでデイサロンの

デイサロンの概要

| | |
|-------|--|
| 名 称 | JAはまなかデイサロン |
| 活動内容 | 高齢者が集まり楽しく過ごす場の提供、通院や買い物等の外出支援など |
| 開始年月 | 2006年10月 |
| 会 場 | JA浜中町本所1階の元金融店舗を活用 |
| 開 催 日 | 隔週水曜日（10：00～12：30） ※開催予定日をデイサロン広報誌等にて案内 |
| 運 営 | ・JA浜中町の営農課が利用申込み窓口。 ・当日の運営は主にキャンナス釧路のメンバー（3～4名）が担当。 |
| 利用人数 | 1回あたり10～15名 |
| 利用料金 | 送迎込みで1回あたり500円 |

（出所）筆者作成

4 コロナ禍により本稿執筆時点では隔週で開催されている。

一日が終わる⁵。

昨年10月にデイサロンは開設から15周年を迎え、15周年記念誌を発刊した。そのなかに「デイサロンのあゆみ」として、年度ごとに開催した行事等を紹介している。その内容の一部を表（後掲）に掲げるが、それらは各年度限りの行事ではなく、毎年工夫を凝らしながら継続的に開催している。「浜中町大学生アンバサダー」の来訪や「ヒンメリ（北欧フィンランドの伝統工芸）」をつくるなど、利用者にとって非日常的な体験も含まれており、幅広いメニューを提供してきた。デイサロンでの行事は、地域の人との交流や様々な文化、日本の四季に触れることのできる行事であ

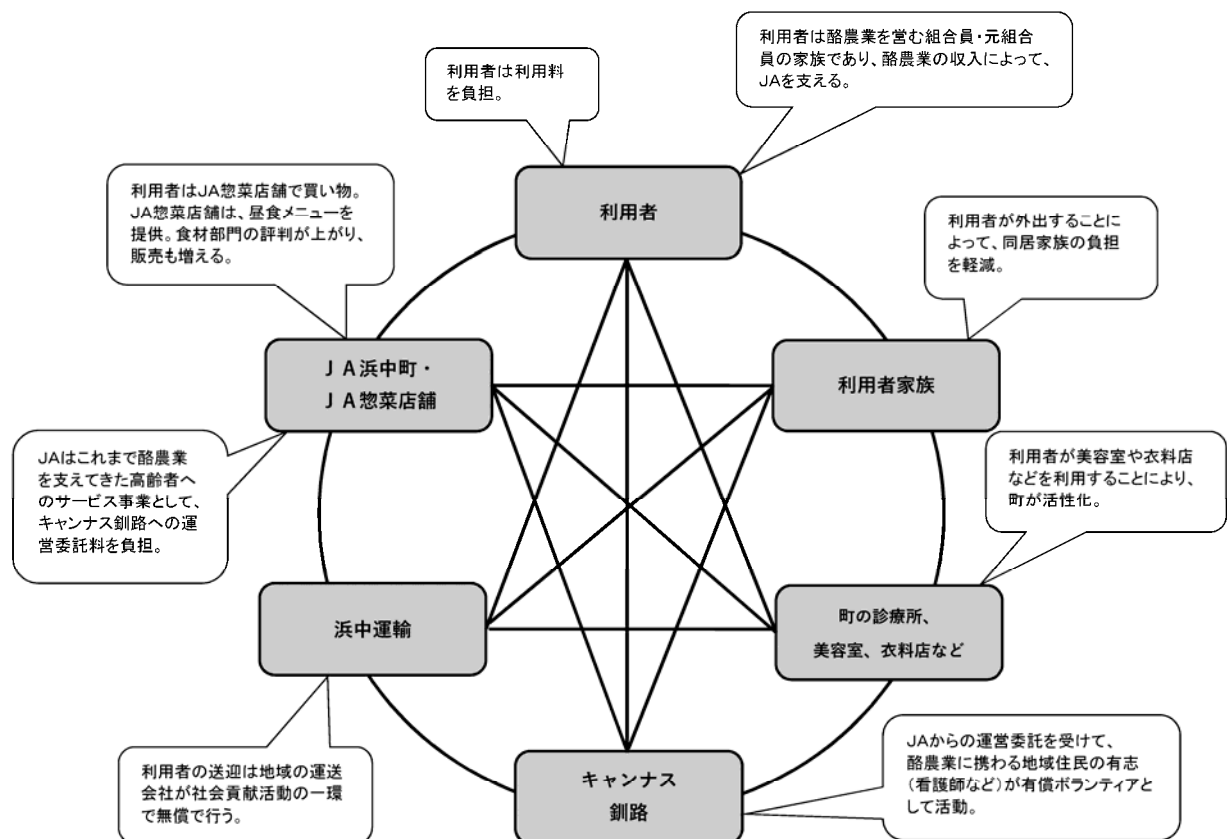
る。また、利用者の尊厳を大切にし、長年地域を支えてこられた利用者への感謝の気持ちがあふれた行事となっているといえよう。

(3) 運営の仕組み

デイサロンの運営の仕組みは図のとおりである。

利用者は毎回の利用料を支払うことでデイサロンを利用できるが、その利用料はデイサロンの収入となる。デイサロンの施設を提供するJA浜中町が利用申込みの窓口となり、コロナ禍で中止となる前の昼食代、活動スタッフの雇用経費や送迎バスの燃料費、事務経費等の運営にかかる支出分から収入分を

(図) デイサロン運営の仕組み



(出所)「JAはまなかデイサロン開設15周年記念誌」の掲載図を筆者一部改変。

5 コロナ禍により本稿執筆時点では昼食提供を休止し、午前中だけの開催となっている。

差し引いた費用もすべてJAが負担している。

そしてサロン当日、利用者に寄り添い、楽しく過ごす場を提供するのは「キャンナス釧路」の看護師やメンバー、地域のボランティア⁶である。キャンナスとは「全国訪問ボランティアナースの会」の通称で「できる(Can)ことをできる範囲で行うナース(Nurse)」から名づけられた。介護保険制度が施行される前の1996年に発足し、独り暮らし高齢者や介護・看護の必要な家族のいる家庭への手伝い等、制度の行き届かない部分の手伝いを行う、看護師を中心とした有償ボランティア団体である。その釧路支部が「キャンナス釧路」であり、デイサロンの開設に欠かせない存在でもあった⁷。

利用者の送迎は、浜中町に本社を置く株式会社浜中運輸が担い、社会貢献の一環として無償でドライバーを派遣している⁸。利用者に昼食を提供していた時期には、JAの惣菜店舗が高齢者の口に合う食材や調理法、食べやすい昼食メニューを検討のうえ提供していた。また、後掲の表からもわかるように、利用者は地域の様々な場所へ出かけ、交流している。デイサロンは、地域の多くの人や団体に関わり、できることをできる範囲で少しずつ行う、多職種連携で運営されている。

4. おわりに

JAはまなかデイサロンは、JAが組合員家族の生活に目を向け、地域の専門職や住民等の連携を促し、地域全体で課題解決してこうとの思いで実現された取り組みである。地域や組合員の抱える課題に向き合うことから

始め、その課題を1つの組織で解決しようとするのではなく、地域の様々な人や団体と協力関係を築き、それぞれが決して無理をせず可能な範囲で関わっていくことにより継続してきた。利用者は、外出して誰かと接することで大きな生きがいを持てるようになり、前向きな気持ちで生活することができる。その結果、介護予防や健康増進につながることも期待できる。利用者家族にとっては、親の健康や介護への不安が和らぎ、また、自分自身の時間を確保できることで、より良好な家族関係を築いていけるようになるかもしれない。高齢化だけでなく孤立化も危惧される広大な酪農地域において、このような場が提供されることで、高齢者は住み馴れた場所で元気に暮らし続けていくことができる。デイサロンにおける利用者の写真等を拝見すると、とても楽しそうで、嬉しそうな顔が印象的である。これまで地域を支えてこられた高齢者をこれからは地域で支えていこうといったJAや活動スタッフ等の思いが15年以上にわたる活動の原動力となっているのだろう。

(謝辞)

大変お忙しいなか聞き取り調査にご協力いただきました浜中町農業協同組合の高橋勇参事、金子利弘課長、キャンナス釧路の竹内美妃様、関係者の皆様、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

(本文および脚注掲載以外の参考資料)

- ・河合知子、竹内美妃(2011)『酪農家による酪農家のための高齢者福祉』筑波書房

6 地域のボランティアとして、JA女性部のメンバーが参加することもある。

7 キャンナス釧路を立ち上げたのは看護師の竹内美妃氏である。デイサロン開設前、JAが組合員家族(女性)へのアンケートを実施した時期は竹内氏がキャンナス釧路を立ち上げた時期でもあった。デイサロンの企画にあたってJAは竹内氏に相談し、運営をお願いしたとのことである。竹内氏の「地域の高齢者の疾病予防や健康増進の力になりたい」との思いもデイサロンの実現につながっている。

8 デイサロンの送迎サービスを参考に、2022年10月から浜中町運営のデマンドバスが運行を開始した。それに伴い、デイサロンにもデマンドバスを利用して来てもらうことになり、デイサロン参加のためのバス料金はJAが負担している。

(表) デイサロンで開催された行事等

| | |
|--------|--|
| 2006年度 | ・ デイサロンオープン。 |
| 2007年度 | ・ 茶内小学校の生徒さんへ畑作業を指導。 ・ 町が推進する介護予防運動「ふまねっと」を体験。 ・ ピアノ教室の先生の伴奏のもと歌を楽しむ。 ・ 「茶内地区総合文化祭」に出演し「大正生まれの人生を唄う」を披露。 |
| 2008年度 | ・ ルールをアレンジしながらゲートボールを楽しむ。町のスポーツ行事にも参加。 ・ 地域の方からこたつを提供してもらい、部屋で暖まりながら談話。 ・ 「霧多布湿原センター」にてランチ会を開催。 |
| 2009年度 | ・ 満開の桜を愛でながら食事処「北の家」のお花見弁当を外でいただく。 ・ 「MO-TTOかぜて（浜中町中山間活性化施設）」で行われた「牧場祭」に参加。 ・ 浜中産の牛肉バーベキューを味わい、屋台での買い物を楽しむ。 |
| 2010年度 | ・ ひな人形や桃の花を飾り、桜餅をいただきながらひな祭り。 ・ 1つのテーマについて語り合う時間を設ける。初回のテーマは「牛」。 ・ 酪農家として長年働いてこられた利用者同士、牛への愛情あふれる話などを語り合った。 |
| 2011年度 | ・ 東日本大震災が起きる。デイサロンでも支援物資や義援金を集める。 ・ デイサロンスタッフの看護師が宮城県石巻市の避難所にて医療支援活動を行う。 |
| 2012年度 | ・ 新春に向けて「デイサロンかるた」を作成。かるた大会を開催。 ・ 桃の節句をお祝いし、癒しの香りに包まれたハンドマッサージを体験。 ・ 「笑いは健康に一番」ということで「笑いヨガ」に挑戦。 |
| 2013年度 | ・ サロン内のできるお菓子作りや「MO-TTOかぜて」でのきびだんごづくりを楽しむ。 ・ 久しぶりの1日バス旅行で釧路へ行く。「千歳鮭」で昼食をとり、釧路芸術館で「梅后流江戸芸かっぱれ」を観覧。帰りは「別保公園」でお土産選び。 |
| 2014年度 | ・ 年始めには温かい甘酒を味わいながら懐かしい歌をロズさむ。 ・ 茶内の酪農展望台を訪れ、ソフトクリームやいも団子を美味しくいただく。 ・ 「霧多布湿原センター」での「編み物カフェ」に参加、若いママさんたちに編み物を教える。 ・ 薬局や書店にも出向き、霧多布での買い物も楽しむ。 |
| 2015年度 | ・ 霧多布神社へ初詣に行き、利用者の健康とデイサロンの安全を祈願。 ・ 作業療法士の先生を招き、三線に合わせて体操したり、元気に過ごすための話を聞く。 ・ 「霧多布湿原センター」でクラシックコンサートを鑑賞。 |
| 2016年度 | ・ 霧多布の小松牧場を訪問。美味しい小松牛乳をいただく。 ・ 浜中の桜公園でお花見。満開の桜の下でランチと散歩を楽しむ。 ・ ピアノ教室の先生のピアノ伴奏に合わせて、ハンドベル演奏を楽しむ。 |
| 2017年度 | ・ 「釧路・根室の簡易軌道写真展」を見に行く。開拓当事の写真から皆で昔を偲ぶ。 ・ 利用者お手製の日よけ帽を皆でかぶって記念撮影。 ・ 「浜中町大学生アンバサダー」の女子大生が来訪、酪農開拓の話や酪農の魅力などを伝える。 |
| 2018年度 | ・ 節分の豆まきをしてデイサロンに福を呼び込む。 ・ フラダンスサークルの方が来訪し、心がウキウキする時間を過ごす。 |
| 2019年度 | ・ 闘病中の仲間のために折り続けた千羽鶴が完成。 ・ 昔の酪農業のことや浜中軌道のお話を聞きに「雪印メグミルク株式会社」の方が来訪。 ・ JA女性部のメンバーと「ヒンメリ」作りを楽しむ。 |
| 2020年度 | ・ パレンティンデーにスタッフ手作りのチョコケーキを皆で味わう。 ・ タオル1枚で作る人形作りに挑戦。 ・ かねてより要望のあった「セイコーマート」でお買い物を楽しむ。 |

(出所) 「JAはまなかデイサロン開設15周年記念誌」より筆者作成